



二〇〇〇年高2韓国コース

## いまだきの 学年行事

”学園生活の思い出”といえ、学年行事のことを挙げられる方も少なくないでしょう。『百年史』では、明治三二年から平成六年までの旅行・行事が表にまとめられていますが、そのなかには、麻布ならではの行事も少なくありません。十月八日の「反省の日」に、相模湖遭難事故の犠牲となった生徒を追悼した後、例年、十月中旬の三・四日間が行事期間となっています。事故のないように気をつけながら、生徒の自主性を重んじた様々な行事が、各学年で行われています。今回は特集として、最近行われた行事のいくつかをご紹介します。(松田)

麻布の学年行事では、学年ごとに特徴が見られるが、最近では中学一・二年で、高尾山・箱根などへの遠足、中三は関西への二泊三日の旅行という形式が定着している。中学では行先は学年会が決めるが、内容などは生徒による旅行委員が企画することも多い。そして、高校では、アンケートなどを行い、企画・目的地について生徒の意見が多く反映されるようになる。なかには、ユニークな企画もあり、「自衛隊を考える」(平二高一)、白衛隊を見学、防衛庁で討論会を実施)や「ナイトウオーク」(平四高一、現代版「夜中

行軍」け)などが、これまでに行われて



一九九八年高1ノルウェー大使館訪問

麻布高校、韓国へ・学年旅行の遠距離化  
六年間の行事の中で最も規模の大きいものは、何と云っても「学年旅行」だ。かつては、学年全員が同じ地域を旅行していたが、平成二年から四国・関西など、様々なコースに分かれるようになった。また以前は、悪天候等の影響を顧慮して、移動手段として航空機は使われていなかったが、職員会議での二、三年にわたる議論を経て、平成五年の高一の北海道旅行で初めて使用された。以降、北海道・九州・沖縄など、国内各地を訪れている。  
平成九年に高二で韓国コースが企画され、約四〇名の生徒が国境を越えた。訪問先は慶州、ソウル。旅行代理店との折衝には、教員と生徒代表による旅行委員があったり、単なる物見遊山に終わらせないところは他のコースと同じだが、参加者はさらに、ハンゲル語などの研修を受けている。  
以降、このコースは定着した観もあるが、「近くて遠い」(『論集97』生徒投稿)国にふれて、世界観を新たにした生徒が多いようだ。

特に「大使館めぐり」は定番になりつつあるコースで、各国大使館が近隣にあるという地の利を行かして、ソ連、ドイツ、南アフリカ、コートジボアールなど、様々な大使館を訪問している。普段で味わえない大使館の雰囲気、生徒もいささか緊張気味だが、「一九六〇年代、PLOは「ハイジャック闘争」等を行ったが、それについてはどう思うか」(平二)、PLO代表部での質問)といった鋭い質問を繰り出すこともしばしば。質疑の場には通訳がいることは多いが、ある大使館では日本語が全く通用せず、英語の得意な生徒が通訳を務めた。応対に大使自らが出席する場合も多く、生徒の質問に丁寧に応答される。それを通じて交流が深くなることもあり、平成二年にはソ連大使館訪問の後、生徒の要望にこたえてシエフチエーク等書記官(当時)が来校し、生徒四〇〇余名をあつめての講演会が行われ

た。  
このような行事での経験は、文集にまとめられたり、『論集』に投稿されたりして、文章を通じて共有される。そして、それらの資料をもとに、また新たな行事が企画されてゆく。  
こうした学年行事にも、「麻布らしさ」があらわれているようである。